洗足学園音楽大学専攻科
デビューコンサート

2020年 9月20日(日)14:00~

洗足学園 シルバーマウンテン 2F

PROGRAM

狩俣 真子（フルート）

マラン・マレー/《スペインのフォリアによる変奏曲》

Marin Marais(1956-1728)//Les Folies d`Espagne

荒又 恭子 （ソプラノ）　　片倉 みな美 （ピアノ）

越谷達之助(1909-1982)作曲　石川啄木詩 /「初恋」

團伊玖磨(1924-2001)作曲　北原白秋詩 /五つの断章 より5「希望」

飯村 紗雪（ピアノ）

F.メンデルスゾーン/《幻想曲》「スコットランド・ソナタ」Op.28 嬰ヘ短調より

第1楽章、第3楽章

Felix Mendelssohn(1809-1847)//"Fantasie"(Sonate écossaise) fis-moll Op.28 1st mov. 3rd mov.

河内山 魁莉（テノール）　　林 菜月 （ピアノ）

P.チマーラ：《ノスタルジア(郷愁)》

Pietro Cimara(1887-1967)//Nostalgia

G.ドニゼッティ/歌劇《ドンパスクワーレ》から〈哀れなエルネスト～誰も知らない地へ〉

Gaetano Donizetti(1979～1848)//《Don Pasquale》～Povero Ernesto/Cercherò lontana terra

～休憩～

渡辺 夏来（マリンバ）

E.サミュ/《3つのSpiral》より1,2

Eric Sammut(1968～)//Spiral1.2

A.ピアソラ/（E.サミュ編曲）《リベルタンゴ》

Astor Piazzolla(1921-1992)(Arranged by E.Sammut)//Libertango

井山 優希（フルート）

P.O.フェルー 「3つの小品」

Pierre-Octave Ferroud(1900-1936)//Trois Pieces pour flute seule

芳村 早紀子（ソプラノ）　　林 菜月 （ピアノ）

G.ドニゼッティ/《舟歌》

Gaetano Donizetti (1797-1848)//"Il barcaiolo"

G.ヴェルディ歌劇/《リゴレット》より〈慕わしい人の名は〉

Giuseppe Verdi(1813-1901)//《Rigoletto》"caro nome"

佐久間 由希乃（ピアノ）

C.ドビュッシー/《映像第１集》より〈水の反映〉《映像第２集》より〈金色の魚〉

Achille-Claude Debbusy(1862～1918)//

Images I /Reflets dans l'Eau
Images II /Poissons d'Or

白石 渉（テノール）　　林 菜月 （ピアノ）

S.ドナウディ/《かぎりなく優雅な絵姿》

Stefano Donaudy(1879-1925)//"Vaghissima sembianza"

G.ヴェルディ/《運命の力》より〈人生は不幸なものにとって地獄だ〉

Giuseppe Verdi(1813-1901)//
"La forza del destino"~La vita è inferno all`infelice ~

PROGRAM NOTE

マラン・マレー　《スペインのフォリアによる変奏曲》

マラン・マレー（1656年～1728年）はフランスの作曲家、指揮者、バス・ヴィオール（ヴィオラ・ダ・ガンバ）の奏者で幼少の頃から音楽の才能を認められて、1667年にサン・ジェルマン・ロクセロワ教会の少年聖歌隊員となり、ヴィオールをサント・コロンブに学ぶ。その後ルイ14世の宮廷ヴィオール奏者に任命される。また作曲家としても有名になり、《アルシッド》や《アルシオーヌ》等のオペラやヴィオール曲集などのヴィオールを中心とした室内楽を数多くの残している。

《スペインのフォリアによる変奏曲》は無伴奏のフルート曲としても有名だが、元々はヴィオルのための曲集の中の曲である。フォリアとは、定型のバスの上に変奏曲が繰り返される舞曲のことである。マレの変奏曲は、ヴィオルの様々な技巧が鏤められると同時に、舞踊の描写が見られる。もともとは、31の変奏曲からなるが、独奏フルートのための編曲では重音奏法などの変奏曲が省かれるなどして、24曲が選ばれている。静かでありながら、空間の広がりを感じさせるような壮大さや、シンプルな旋律で曲が進んでいくが独特なハーモニー進行など、聴き応えのある曲になっている。

越谷達之助作曲　石川啄木詩《初恋》

《初恋》は１９４０年（昭和15年）に日比谷公会堂において三浦環によって初演された日本歌曲。三浦環は日本で初めて国際的な名声をつかんだオペラ歌手。作曲者の越谷達之助は特に三浦の伴奏ピアニストとして活躍していて、楽譜に「三浦環先生に捧ぐ」と附記しているように彼女に捧げられている。詩は石川啄木の歌集『一握の砂』の中の一首。「砂山の　砂に腹ばい　初恋の　痛みを遠く　思いいずる日」。この砂山とは、20世紀始めの函館の大森浜にあった砂丘（砂山）をさす。その砂丘に腹ばいになって、青い空、青い海の彼方遠くに目を向けると下北半島が見え、そこをずっと南下すると岩手県の盛岡の渋民に着く。こうして詩人（啄木）は13歳の妻の節子と出会った、遠い日の恋の想い出を一人想い出しているといった内容である。

團伊玖磨作曲、北原白秋詩《希望》

1946年（昭和21年）に作曲。北原白秋の詩による《５つの断章》の第5曲目。明日こそは、明日こそはと片思いしている女性に想いを伝えにいく。強い決意が表れている。顔も赤めることなく、アマリリス(花言葉:誇り)ある彼女への感情を胸に抱き、明日こそは彼女に告白をし、そして手をとり、人生を共に歩んでいきたい、《希望》を持った青年の内容である。

F.メンデルスゾーン《幻想曲》「スコットランド・ソナタ」Op.28 嬰ヘ短調より第1楽章、第3楽章

この曲はドイツ・ロマン派の作曲家、指揮者、ピアニスト、オルガニストだった、フェリックス・メンデルスゾーンによって書かれた作品である。裕福な銀行家一家に生まれたメンデルスゾーンは、かつてのモーツァルトのように音楽の「神童」として知られ、若い頃から数々の名作を作曲している。《幻想曲》作品28はスコットランド旅行に出かける前の1828年に書き始められ、帰国後の1830年にヴァイマールのゲーテの前で演奏。その後、1833年に改訂して出版した。つまり、作曲を開始した1828年から5年間この曲を書き直し続けたことになる。第１楽章嬰ヘ短調、４分の２拍子、コン・モート・アジタートーアンダンテ、第２楽章イ長調 ２分の２拍子 アレグロ・コン・モート、第３楽章嬰ヘ短調８分の６拍子 プレストの3つの楽章からなり、メンデルスゾーンの曲によく見られるようにアタッカで続けて演奏される。

今回演奏する第1楽章と第3楽章は、どちらも嬰ヘ短調で書かれているが、第1楽章冒頭のやや悲愴感のある哀しげな旋律に対して、第3楽章は冒頭から高速で弾かれる６連符がほとんど間断なく現れ、情熱的な終曲となっている。メンデルスゾーンの作品にしては陰鬱な情感と、濃厚なロマンティシズムの漂う曲調が特徴的な作品である。

P.チマーラ　《ノスタルジア(郷愁）》

ピエトロ・チマーラ（1887年～1967年）はイタリアの作曲家。ローマでレスピーギに師事し、作曲をしながら指揮者、ピアニストとして国際的に活躍しました。〈ノスタルジア〉は《五つの叙情歌第1集（Cinque liriche I ）》の中の一つで、演奏会などで取り上げられる有名な歌曲です。歌詞はハインリヒ・ハイネのドイツ語の詩をイタリア語に翻訳したもの。「郷愁」とは、故郷への懐かしい思いや過去のものなどにひかれる気持ちを意味します。曲の最後の三連符や、最高音を持ってくることで詩人の故郷への想いが強く表わされています。

G.ドニゼッティ　歌劇《ドン・パスクワーレ》から〈哀れなエルネスト～誰も知らない地へ〉

この曲は19世紀初頭のベルカント・オペラの作曲家として知られる、ガエターノ・ドニゼッティ（1797年～1848年）の歌劇《ドン・パスクワーレ》の第2幕冒頭で歌われるエルネストのアリアです。伯父のパスクワーレからの縁談を断ったために家から追い出すといわれたエルネストは、それに肩入れした友人のマラテスタに裏切られたと思い、恋人であるノリーナさえも失ってしまったと嘆きます。レチタティーヴォではこのような自らの境遇や別の街で暮らそうという思いを説明し、それに続くアリアでは知らない土地で戦士の心を忘れずに生きよう、でもノリーナのことを忘れることはできないことを、そして最後のカヴァレッタ（アリアの最後で歌われるテンポの速い華やかな部分）では、もしノリーナの気持ちが他の人に動いたとしても、自身の気持ちは変わらず、彼女への愛はなくなることはないと歌います。

E.サミュ/《3つのSpiral》より1,2　A.ピアソラ/（E.サミュ編曲）《リベルタンゴ》

エリック・サミュ(1968年～)はフランスのトゥルーズ生まれの打楽器奏者である。リヨン国立歌劇場管弦楽団に首席打楽器奏者として入団後の1995年にリー・ハワード・スティーブンスが主催する国際マリンバコンクールで優勝。それを機にマリンビストとして国際的に認知されるようになる。現在はパリ管弦楽団の打楽器奏者を務める傍ら、パリ国立高等音楽・舞踏学校で指導を行っている。

作曲家としてマリンバ楽曲などを数多く手がけており、彼の作品は国内外問わず人気があり広く取り上げられている。今回はそんなサミュの自作品と編曲作品、2曲を演奏する。

《3つのspiral》は2002年から2003年にかけて、個別に演奏するにも、3曲セットで演奏してもよいように作曲された。「Spiral」とは日本語で「螺旋」の意味である。本日はそこから１，２を演奏する。１はメロディにスラーを使い、美しくも切ない流れるような旋律が特徴的だ。２はよりリズミックに、サミュらしいジャズとフランス音楽が合わさった独特の旋律が頻繁な転調とともに使われる。それぞれのフレーズやリズムが「螺旋」のように回り、蠢いて行く様子を感じ取って頂けたら幸いだ。

《リベルタンゴ》は誰もが一度は聴いたことのあると思われるアストラ・ピアソラのタンゴの名曲を、5オクターブマリンバ用に編曲した作品である。左右のマレットが常に16分音符で動き、その中にお馴染みのフレーズが聴こえてくる。演奏時間は約3分と短いが譜面は8ページにも渡る。原曲の良さを生かしつつも、よりアップテンポな作品に仕立てられている。

Ｇ・ドニゼッティ《舟歌》

ガエターノ・ドニゼッティ（1797年～1848年）はイタリアの代表するオペラ作曲家として知られているが、歌曲作品も多く、生涯に300曲近く遺している。この曲は、39歳の時にパリの社交界向けに出版された歌曲集《ポリジポの夏の夜》の一曲目に収録されている。「ポリジポ」はイタリアのナポリ湾を見下ろす丘で、現在世界三大夜景の一つとされている。ドニゼッティはナポリの劇場で多くのオペラを初演するなど、ナポリで生活していた時代があった。歌詞はナポリの詩人L.タランティーニ作。

G.ヴェルディ歌劇/《リゴレット》より〈慕わしい人の名は〉

《リゴレット》はジュゼッペ・ヴェルディ(1813年～1901年）が1850年～51年にかけて作曲した三幕からなるオペラで、1851年3月にヴェネツィア・フィニーチェ座で初演された。原作はヴィクトル・ユゴー作『王は愉しむ』、台本はフランチェスコ・マリア・ピアーヴェによるヴェルディ中期の作品の傑作とされている。

〈慕わしい人の名は〉は第一幕でヒロインのジルダによって歌われるアリアである。マントヴァ伯爵のお抱え道化師のリゴレットが人目を避けて育てている純真な娘ジルダは、教会で出会った貧しい学生に恋をする。しかし、その正体は素性を隠したマントヴァ伯爵であった。そして彼の偽名であるグアルティエール・マルデという名前を呟きながら初めての恋のトキメキと、彼への愛を歌う。

ドビュッシー《映像第1集》より〈水の反映〉、《映像第2集》より〈金色の魚〉

C.ドビュッシー（1862年～1918年）は、19世紀末から20世紀にかけて常に新しい技法や表現を追い求め、印象主義音楽の扉を開けたフランスの作曲者である。

1900年初頭に作曲された《映像》は、ドビュッシー独特の感性や世界観を、ピアノで印象的に表現するため、新しい和音や手法が取り入れられている。
またこの頃はフランスで活動していた文学者や画家たちとの交友が深まった時期でもあり、ドビュッシー自身も《映像第1集》は「シューマンの左かショパンの右に位置する」と自讃したほどの傑作である。また《映像　第2集》では、音が織り重なる楽曲の構造をよりわかりやすくするため、従来の2段譜表による記譜法ではなく３段譜を採用している。

〈水の反映〉はラヴェルの《水の戯れ》やリストの《エステ荘の噴水》の影響を受けた、「水」をモチーフにしたパッセージが特徴的である。細かいリズムと流れるようなリズムが対照的に描かれており、音楽から様々な情景が思い浮かぶ。

〈金色の魚〉は２尾の金の魚が描かれた日本の漆絵からインスピレーションを受けて作曲された。転調が多く、トレモロが魚が気ままに泳ぐ様や美しさを躍動感とともに印象深く表現している。

S・ドナウディ《かぎりなく優雅な絵姿》

ステファノ・ドナウディ(1879年～1925年)はフランス人の父とイタリア人の母を持ち、シチリア島のバレルモという場所に生まれた。彼はオペラや歌曲だけでなく、ピアノ曲や行進曲なども数多く作曲している。〈かぎりなく優雅な絵姿〉は、歌曲集《古典様式による36のアリア》の中の1曲で、作詞は弟のアルベルト・ドナウディが手がけた。主人公の前に1枚の女性の絵がある。その女性は昔愛した女性にとても似ていて、絵を見ながら彼女を愛した日々を思い出すという内容である。

ヴェルディ作曲《運命の力》より〈人生は不幸なものにとって地獄だ〉

《運命の力》は全4幕からなるジュゼッペ・ヴェルディ(1813年～1901年）のオペラ。原作はリバス公爵の『ドン・アルヴァーロ、あるいは運命の力』、台本はフランチェスコ・マリア・ピアーヴェ。1862年にロシアのペテルブルクの帝室劇場で初演され、翌年にミラノのリコルディ社から出版されたが、その後作曲者自身で改訂を行ない、1869年にミラノのスカラ座で再演した。そのため、初演の際の原典版と改訂版(こちらの台本はアントニオ・ギスランツォーニ）があり、現在上演されるのは、こちらの改訂版の方である。原作は主要人物全員が死んでしまったり、主人公のドン・アルヴァーロが死ぬ直前に「人類は皆滅びよ」と叫ぶなど、当時としてはかなり過激な内容であり、宗教上からも冒涜的だとの声が多かった。こうした原作に忠実に作られた初演版にも同様の批判の声が上がったためである。そこでヴェルディは前奏曲を改めて序曲として作り直し、第3幕の最後の場面でドン・アルヴァーロは死ぬことなく、三重唱のピアニッシモで終わるようにした。オペラのおおよその内容は以下の通り。レオノーラとアルヴァーロは恋仲だったが、レオノーラの父カラトラーヴァに反対される。抵抗はしないとアルヴァーロが捨てた銃が暴発しカラトラーヴァは命を落とす。1年以上経って、アルヴァーロは彼女が死んだと思い戦場へ。一方のレオノーラも彼に見捨てられたと勘違いする修道院入るなど、二人はお互いの思い違いで離れ離れになっていた。〈人生は不幸なものにとって地獄だ〉はアルヴァーロが、オペラの3幕冒頭に、天国にいると思っているレオノーラへの想いを歌うアリアである。

PROFILE

狩俣 真子

沖縄県出身。洗足学園音楽大学音楽学部管楽器コース卒業。小学校2年でマーチングを始めトランペット、トロンボーンを学ぶ。中学でフルートを始め、中高と吹奏楽部に所属。現在、洗足学園音楽大学専攻科に在学中。フルートを山田州子氏に師事。

荒又 恭子

東京都出身。洗足学園音楽大学音楽学部声楽コース卒業。16歳より声楽を始める。これまでに声楽を前原鮎子、吉田伸昭、沢崎恵美の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学音楽専攻科声楽コースに在学中。

飯村 紗雪

1998年東京都出身。洗足学園音楽大学ピアノコース卒業。10歳で姉の影響でピアノを始める。中学、高校と吹奏楽部に所属しトロンボーンを担当。第55回、第56回東京都高等学校吹奏楽コンクールでは金賞受賞。大学在学中3年次に井上道義の《メモリー・コンクリート》、4年次にはラヴェル作曲の《マ・メール・ロワ》でシルヴァン・カンブルランと共演。現在、洗足学園音楽大学専攻科ピアノコース在学中。ピアノを谷川明氏に師事。

河内山 魁莉

1997年神奈川出身。洗足学園音楽大学声楽コース卒業。声楽を牧野正人氏に師事。

中学2年次に校内合唱コンクールにて学園優勝、中学３年次ではソロを担当。中学、高校と吹奏楽でホルンを担当。中学3年夏のコンクールにて、東関東大会銀賞。高校3年夏のコンクールにて東関東大会銀賞。2013年3月、2016年3月、母校の中学校定期演奏会にて、ライオンキングのキャスト、ザズー、スカー王として出演。

現在、洗足学園音楽大学専攻科声楽コース在籍中。

渡辺 夏来

埼玉県鶴ヶ島市出身。洗足学園音楽大学打楽器コース卒業。7歳よりピアノ、12歳より吹奏楽部で打楽器を始める。これまでにピアノを希代智子、打楽器及びマリンバを石井喜久子、マリンバを坂口あき、神谷百子の各氏に師事。室内楽を石井喜久子氏に師事。在学中にスチールパン部、pan note paradiseに所属し、ダブルテナーパンとテナーパンを担当。数多くの演奏会に出演する。またアニメ「響けユーフォニアム」のイベントに打楽器奏者として出演する。2xxx年エマニュエル・セジョルネのマスタークラスを受講。第28回日本クラシック音楽コンクール全国大会出場。優秀賞受賞。現在、洗足学園音楽大学専攻科に在学中。

井山 優希

小学3年生から独学でフルートを始める、中学校入学と同時に吹奏楽部でフルートを担当、その後高校でも吹奏楽部に所属し、フルートを続ける。これまでにフルートを佐藤大祐、菅井春恵の各氏に師事。

芳村 早紀子

12歳よりフルートを、16歳より声楽を始める。八雲学園中学高等学校を卒業。洗足学園音楽大学音楽学部管楽器コースにフルートで入学。大学3年次に声楽科に転科し、同大学声楽コース卒業。フルートを安本恵子、苗代恵理子、酒井秀明、菅井春恵各氏に師事。声楽を保川将一、酒井泰子、斎藤由美子、塩田美奈子の各氏に師事。

佐久間 由希乃

東京都出身。洗足学園音楽大学音楽学部ピアノコース卒業。5歳からピアノを始める。これまでピアノを末木裕美氏に師事。大学在学中は歌曲・オペラ伴奏の研究、器楽伴奏に積極的に取り組む。学外では、部活動の指導やボランティアなど、教育現場でも活動を広げ、音楽を通じた社会貢献の可能性を模索している。現在、洗足学園音楽大学専攻科在籍中。

白石 渉

静岡県沼津市出身。声種はテノール。6歳からピアノを習い始め、中学校吹奏楽部にてホルンを始める。静岡県立沼津西高校芸術科音楽学科にてホルンを専攻し卒業。洗足学園音楽大学声楽コース入学。在学中に2019年度特別選抜演奏者に認定される。多摩美術大学とのコラボレーションオペラ、「魔笛」日本語公演にてタミーノ役を、「コジ・ファン・トゥッテ」にてフェランド役を務める。学内ゼミの日本語公演にて、「魔笛」タミーノ役、「カルメン」ドン・ホセ役を務める。これまでに声楽を牧野正人、江原陽子、各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学専攻科在学中。